

人権意識を高めるための 研修事例集



平成28年3月

愛媛県教育委員会人権教育課

はじめに

平成 27（2015）年は、「同和対策審議会答申」〔昭和 40（1965）年〕が出されてから 50 年の節目の年でした。この答申は部落差別の解消が国民的な課題であり、日本政府が同和問題の解決を国策として取り組むべきことを明記した画期的なものでした。以後、「同和対策事業特別措置法」をはじめとする一連の関連法が制定され、様々な施策が展開されるとともに、差別の現実に深く学ぶことを中心課題として、差別解消に向けた教育が行われてきました。

このようななか、本県では「愛媛県人権施策推進基本方針」第二次改訂版（平成 27 年 3 月）が策定され、「被災者」など新たな人権課題を加えました。県教育委員会では、「愛媛県人権施策推進基本方針」の具現化を図るため、「愛媛県人権・同和教育基本方針」に基づき、これまでの同和教育の成果や視点、手法等を継承するとともに、互いの人権が尊重される社会づくりを目指し、あらゆる差別、偏見を解消するための人権・同和教育を推進しています。

この教育を推進していくには、まず、人権・同和教育の推進者である公務員や教職員等の人権意識を高めていく必要があります。そのための研修や体制を整備することによって、推進者一人ひとりの同和問題をはじめとする様々な人権問題に関する認識は自ずと深められていきます。

そこで、今年度は、推進者の人権意識を高めるため、校内や職場内で活用することができる研修資料を作成しました。今回は、主に知識や技能などを修得することを目的として、就学前から高等学校までの教職員研修や社会教育における職員研修について研修事例を掲載しています。

このことを踏まえ、ぜひ本資料を御活用いただき、人権尊重の視点に立ったねらいを明確にし、計画を立てて効果的に行うなど、これまでの研修を見直していただく機会になればと考えています。推進者自らが人権課題とのつながりに気づき、そして深めていくことで、推進者だけでなく、子どもたちや地域住民の皆様の豊かな人権感覚や人権意識を育んでいただけると幸いです。

最後になりましたが、本資料の作成に御尽力くださいました皆様に心から感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

愛媛県教育委員会
人権教育課長

【表紙】 平成 27 年度人権尊重の意識を高めるためのポスター作品
高等学校の部 特選 愛媛県立松山南高等学校 1 年 坂本日と

目 次

はじめに

研修例

1	子どもが命の大切さを感じるために ……	【就】	1
	～飼育栽培活動を通して～		
2	子育て懇談会で保護者に何を伝えていくか ……	【就】	4
	～人権の視点から子育てのなかで大切にしたいこと～		
3	保育のなかで子どもの困り感を理解する ……	【就】	6
	～特別支援教育の視点から～		
4	校内の人権・同和教育の推進体制について考える ……	【就・学】	8
5	私が今できることを考える ……	【就・学・社】	9
	～差別の現実から学ぶ～		
6	虐待が疑われる子どもへの支援 ……	【就・学・社】	10
	～虐待についての基礎的理解～		
7	子どもの想像力や共感力を育む ……	【就・学・社】	12
	～心に響く絵本との出会い～		
8	人権・同和教育年間指導計画を作成する ……	【就・学・社】	15
9	ハンセン病問題についての学習 ……	【就・学・社】	16
10	ピア・サポートによる「トラブル解決プログラム」 ……	【就・学・社】	17
11	人権感覚を生かすスクラップゲーム ……	【就・学・社】	19
12	学校施設バリアフリー化計画 ……	【就・学・社】	20
	～校内を巡って～		
13	私の人権ヒストリー ……	【就・学・社】	21
14	いじめ問題への対応 ……	【就・学・社】	23
15	インターネットによる人権侵害 ……	【就・学・社】	25
16	教科書記述から人権問題を考える ……	【学】	26
17	地域の題材に関する教材化を考える ……	【高】	27
18	人権委員会のフィールドワークの報告 ……	【高】	28
19	ホームルーム活動を通じて保護者啓発の方法を考える ……	【高】	29
20	えひめ人権の道しるべを訪ねて ……	【中・高・社】	30
21	セクシャルハラスメントをなくす ……	【高・社】	31
22	身近な人権問題として考える「性的マイノリティ」 ……	【学・社】	32
23	私は私が好きです。なぜならば… ……	【学・社】	34
24	高齢者虐待防止のための研修 ……	【学・社】	35

【対象】就：就学前，小：小学校，中：中学校，高：高等学校，社：社会教育，学：(小中高)

【研修例1】

子どもが命の大切さを感じるために ～飼育栽培活動を通して～

1 ねらい

子どもが命の大切さを感じるために、飼育栽培活動を通して、どのように保育者が関わったり、環境を構成したりすればよいのか、園の実態から考える。

2 手法

ディスカッション、ブレインストーミング

3 期待される効果

飼育栽培活動において、園の実態を把握したうえで、保育者の感性の重要性に気付き、保育者の関わり方や環境の在り方を見直すことができる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
10	1 事例を紹介する。	・現在の子どもの実態が把握できるよう、担当者が事例を紹介する。	ワークシート
20	2 事例についての感想や意見を出し合う。	・事例から感じたことや意見を出し合い、現在の課題や成果について明らかにする。また幼児、保育者、環境設定に分類し、成果と課題を色分けした付箋に記入し、全員が分かるように掲示する。	模造紙 付箋
20	3 今後の課題を明らかにし解決していくための方法について意見を出し合う。	・課題を解決していくために必要な方法について具体的に話し合う。 ・得られた成果を再確認する。	ホワイトボード
10	4 まとめをする。	・保育者の関わり方や環境について、今後の取組の改善点をまとめる。	

ワークシート

事例「ゆきちゃん、お空に行けたかな」

園で飼育していた白ウサギが亡くなった。降園後にそのことが分かったため、保育者で亡くなったウサギを園庭の隅に埋葬し、翌日子どもたちに知らせることにした。

保育者 「みんなに悲しいお知らせがあるの。昨日、みんなが帰った後、ご飯があるかなって見に行ったら、ウサギのゆきちゃんが亡くなっていたの」

子どもたちは、保育者をじっと見つめながら黙ってその言葉を聞いていた。中には涙を浮かべている子もいた。

保育者 「それでね、先生たちで幼稚園のお庭にお墓を作って埋めてあげたんだよ」

Aさん 「どうしてゆきちゃんは死んでしまったの？」

保育者 「ゆきちゃんはとっても長い間幼稚園にいたんだよ。だから、おばあちゃんになって、命が終わってしまったって病院の先生が教えてくれたよ」

Aさん 「命は終わるの？」

保育者 「そうなんだよ。命はずっとは続かないんだよ。だから大切に生きて生きなくちゃいけないんだよ。みんなが大事に毎日お世話してくれたからゆきちゃんはとっても長く生きられたって病院の先生が言っていたよ」

Bさん 「ゆきちゃん悲しいかな？」

保育者 「ゆきちゃんはみんなに会えて、たくさんお世話してくれて毎日うれしかったと思うよ。でも、みんなに会えなくて寂しいと思っているかな。今からみんなでゆきちゃんのお墓に行ってみる？」

子どもたち 「行きたい」

みんなで園庭の隅に作ったお墓に行き、手を合わせお別れをした。

Cさん 「ゆきちゃんお空に行ってね」

Dさん 「もうお空に行けたかな」

お墓に行った後、飼育小屋へも行き、いつもそこにいたゆきちゃんの姿がないのを見て泣いていた子の姿もあった。

子どもたちは、その後も毎日のようにお墓に行き、園庭に咲いている草花を摘んで持っていったり、手を合わせたりする様子が見られている。

事例から考えたいこと

- 子どもたちがどのように感じたかについて考えてみよう。

- うさぎの死や命について、子どもたちにどのように伝えればよいか考えてみよう。

- この事例の成果と課題を考えてみよう。
(視点①子どもの関わり②保育者の関わり③環境の在り方)

○成果

○課題

【研修例2】 子育て懇談会で保護者に何を伝えていくか ～人権の視点から子育てのなかで大切にしたいこと～

1 ねらい

保育者が、保護者の子どもへの願いや子育ての悩みを知り、懇談会等で、保護者にどのようにアドバイスを行うか内容や手法を検討する。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

保育者が保護者の思いや願いなどの実態を把握したうえで懇談会を計画し、保護者啓発につなげることができる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
	事前に準備する。	・保護者アンケートの集計結果を各自で事前に確認しておく。	
15	1 アンケート集計結果をもとに話し合う。	・保護者の子どもへの願いや子育ての悩みを読み取る。	アンケート集計結果
15	2 保育の中で保護者に知らせたい内容について話し合う。 ・生活習慣 ・家族との関わり ・仲間づくり ・命の大切さ など	・園として、園児への関わり方など、大切に取り組んでいることや保護者に伝えたいことなどを出し合う。	ワークシート
20	3 保護者の思いや願いを受け止め、保護者のどんな悩みをどのように提案していくか話し合う。	・保護者同士が自分の体験を話したり、自分の考えを出し合ったりできるよう提案内容について考える。	
10	4 まとめをする。	・保護者に必ず伝えたいことをまとめる。	

※ 懇談会のグループのもち方については、同じ学年、異年齢、卒園児の母の参加など工夫することができる。

ワークシート

考えてみよう

- 保護者の悩みにはどのようなものがあるか。

- 子どもへの願いはどのようなものがあるか。

- 保護者に伝えておきたい園（所）で大切に取組んでいることやエピソードには、
どのようなものがあるか。

- どのような手法で知らせていくか。

【研修例3】 保育のなかで子どもの困り感を理解する ～特別支援教育の視点から～

1 ねらい

幼児期は子どもの発達に個人差が大きく、集団生活に不安を示したり、友達とコミュニケーションをとりにくい子どもが見られる。子どもの特性を理解し、本人の苦手なことや困っていることに寄り添った支援ができるよう、保育者の関わりについて考える。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

事例から保育者の関わりや子どもの特性について話し合うことで、子どもへの理解を深めることができる。

自分の保育や言葉がけを振り返ることで、一人ひとりを大切にしたい保育につなげることができる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
10	1 事例を紹介する。	・登場人物の人間関係などを理解させる。	ワークシート
20	2 Aさんの困り感について考える。 (1) 各自で考える。 (2) 互いに意見を出し合う。	・Aさんの気持ちや保育者、友達との関係性を見取り、考えを出し合う。 ・Aさんの育ちや家庭環境、発達の特性について話し合い、生活背景を探る。	
20	3 事例を通して、保育者の関わりを考える。 (1) 各自で考える。 (2) 互いに意見を出し合う。	・保育者の発した言葉やAさんへの関わりをもとに、自分ならどうするかを考える。 ・互いに意見を出し合い、子どもの発達の特性に応じた保育者の関わりについて学び合う。	
10	4 まとめをする。	・話し合いをもとに一人ひとりを大切にしたい保育に向け、どのように関わるか確認し合う。	

ワークシート

事例「ちょっと見よって」（年中児・4月下旬）

周りからの刺激を受けやすいAさんは、自分の気になることやクラスでの集まりがあると、保育室を飛び出していた。その都度、保育者が声を掛けて呼び止めたり、迎えに行ったりしていたが、保育室を飛び出すことが増えると、「行ったらだめ」と声をかけることが多くなっていった。

ある日、Aさんが「先生ちょっと見よって」と小さめの足ふきマットを足で蹴り上げて取る技を披露した。そばで見ていた友達が「すごいね」「もう1回して」と言い始めると、Aさんは得意そうに何度も見せていた。物を足で蹴り上げて取ることに保育者は抵抗もあったが、Aさんが生かされる場になるのではと考え、帰りの時間にクラスで披露する場を設けた。回りの友達が「私もしたい」「ぼくにも貸して」と真似をし、「Aさんが上手だ」「Aさん教えて」という度に、Aさんは笑顔で保育者の方を振り返った。「ありがとう。また見せてね」と保育者が言うと、「また見せるね」と言って自ら降園準備を始め、クラスの集まりに最後まで参加した。

事例から考えたいこと

- Aさんの困り感について考えてみよう。

- あなたが担任なら、どのような関わりをするか考えてみよう。

- 一人ひとりを大切にしたい保育とは、どのようなものか見直してみよう。

【研修例4】

校内の人権・同和教育の推進体制について考える

校内の人権・同和教育の推進体制・実施状況に関して、1年間の反省を行い、そこで出された課題を次年度に反映させる研修は必要である。そこで、グループワークを行い、校内の人権・同和教育推進に関する課題の共有化を図り、次年度に向けての改善点を検討し、教員一人ひとりがどのように関わるかを考える機会をもつ。

2 手法

K J 法

3 期待される効果

人権・同和教育の推進に関する会議に各自が積極的に参加し、それぞれが推進体制のなかで自分が果たす役割を理解し、実践できるようになる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
30	事前に準備する。 1 校内の人権・同和教育の現状に関して話し合う。 (1) 各自が付箋に書き込む。 (2) 班で意見をまとめる。 (3) 班ごとに発表する。	・学年、教科、年齢などのバランスに考慮し、5～6名のグループに分ける。 ・良い点、悪い点を出し合うなかで、自校の課題を明確にする。 ・自らの実践に基づいて意見を交換する。 ・教員同士が目的や成果を共有するように心掛ける。	模造紙 付箋 ペン
30	2 次年度へ向けて、校内の推進計画や推進体制をどのように改善すべきかを具体的に話し合う。 (1) 各自が付箋に書き込む。 (2) 班で意見をまとめる。 (3) 班ごとに発表する。	・学校の取組のなかで、各自はどう関わるべきかを考えながら話し合いを進める。 ・今回話し合った内容を次年度以降の推進計画や推進体制に反映させる。	

【研修例5】

私が今できることを考える ～差別の現実から学ぶ～

1 ねらい

私たちの社会には、今なお同和問題をはじめとする様々な人権課題がある。しかし、それらは自ら知ろうとしなければ、他人事として済まされてしまうことでもある。自分自身が、また目の前にいる子どもたちや保護者が、差別をしたりされたりすることのない社会を構築していくために、今自分にできることを考え、差別解消への行動化につなげていく。

2 手法

講義法、ディスカッション

3 期待される効果

私たちの身近にある差別の現実を知ることにより、自らの生き方を考えるきっかけになり、指導者として、また一人の人間として自分ができることを考えることができる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
15	1 講師の話を聞く。	・担当者は、事前に講師と打合せを行い、講話内容の焦点化するなど、研修が深まるよう工夫を行う。	筆記用具
15	2 話を聞いて感じたこと、もっと聞いてみたいことを出し合う。	・参加者は、自分の思いを出しながら、人権問題への理解が深まるようにする。	
20	3 これから自分のすべきこと、できることなどについて意見を出し合う。	・自分や子どもたち、保護者が差別を許さない生き方を選んでいけるよう、保育、教育、啓発のなかで、どのようなことができるかについて具体的に意見を出し合う。	
10	4 まとめをする。	・行動につなげられるように話し合ったことを確認し合う。	

※ 人数によってグループ協議や全体協議などの手法を考える。

※ 近隣校や地域・保護者と合同研修をすることも可能である。

【研修例6】

虐待が疑われる子どもへの支援 ～虐待についての基礎的理解～

1 ねらい

虐待は人権侵害であり、一度起きてしまうと子どもの心に大きな傷を残し、人格形成に影響する可能性もある。場合によっては、生命に関わることになる。保育者・教職員等が虐待についての理解を深めることで、早期発見や子どもの視点に立った望ましい対応ができるようにする。

2 手法

ロールプレイ

3 期待される効果

児童虐待について基礎的理解を深めることで、早期発見や早期対応ができるようになる。また、園・所・校内外との連携や協力体制が構築される。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
10	1 事例を紹介し、子どもの気持ちを考える。	・子どもの言葉のなかにある思いや、自分ならどうするかなどについて考えを出し合う。	ワークシート
10	2 子どもの視点に立った対応を考える。	・自分が担任ならどうするか考えられることを書き出す。	
20	3 保育者支援をロールプレイで行う。	・保育者役、子ども役、保護者役でそれぞれ演じる。	ロールプレイ 用名札
10	4 振り返りをする。	・参考資料を活用して、虐待への理解や対応、園・所・校の役割についての留意点をまとめる。	
10	5 まとめをする。		

〈参考資料〉

文部科学省 「児童虐待と学校」

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1280054.htm)

岡山県教育庁人権教育課 「人権教育資料集」～就学前教育編～

ワークシート

事例「びょうきじゃないよ・・・」

登園時間が遅い5歳のAさん。一か月の半分ほど欠席することもある。
母親は、朝起きられなかったり、朝の身支度に時間がかかったりするため登園が遅くなってしまうと言う。欠席するときの理由は「熱が高い」「病院に連れていく」などが多い。

体調が悪いと連絡があり欠席した翌日、登園してきたAさんを抱きしめながら声を掛けた。

保育者「Aさん、だいじょうぶ？元気になるってよかったね。Aさんがこれてうれしいな。」

Aさん「・・・」

保育者「昨日病院行ってお薬もらった？」

Aさん「Aもううれしい。でも、びょうきじゃないよ・・・。」

事例から考えたいこと

- 「びょうきじゃないよ・・・」と言ったAさんの気持ちを考えてみよう。

- あなたは、このような場合どうするか考えてみよう。

- 保育者の支援をやってみよう。（ロールプレイ）
保育者役・Aさん役・保護者役になり演じる。

【研修例7】

子どもの想像力や共感力を育む ～心に響く絵本との出会い～

子どもの想像力や共感力を育むためには、指導者（保育者・教職員等）がどのようなタイミングでどのような絵本と出会いをさせていくのが大切である。子どもの心に響くような人権・同和教育の視点が盛り込まれた絵本を選ぶ力とそのメッセージ性について考える。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

ディスカッションを通して、指導者の感性や人権感覚が磨かれる。

人権・同和教育に視点をあてた絵本を選択する力や、子どもの心に響くような読み聞かせの表現力を身に付けることができる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
1回目 30	1 絵本の選び方について考える。 (1) 人権・同和教育の視点が盛り込まれた絵本を選ぶ。 (2) 絵本の紹介をワークシートに記入する。 (3) 絵本を紹介し合う。	・発達に応じた絵本を選び、その中にどのような人権・同和教育の視点が盛り込まれているのか、どのような場面でその絵本を活用していきたいのかを話し合う。 ・絵本を読む時の留意点について話し合う。	絵本(各自) ワークシート 筆記用具
2回目 10	2 子どもへの読み聞かせの様子を参観する。 ※ 研修の方法として、各自が子どもに読み聞かせを行い、後で話し合う場合もある。	・絵本を読む空間や雰囲気づくりを大切にし、子どもが絵本の世界を楽しめるようにする。 ・読み聞かせをしながら、子どもの表情やつぶやきを丁寧に見取り、記録しておく。	筆記用具
3回目 30	3 子どもたちの反応やつぶやきを振り返る。 (1) 読むときの状況や反応、タイミング等を考察する。 (2) 人権・同和教育の視点について再考する。	・記録をもとに話し合いをもち、子どもの気付きについて考察する。	

10	4 まとめをする。 (1) 「出会い」「家族」「友達」「仲間」などのテーマで選んだ絵本の題名を付箋に書く。 (2) 模造紙にまとめ、話し合う。	・ 人権・同和教育の視点から、今後の保育に取り入れてみたい絵本や場面に応じて活用できる絵本等を紹介し合う。	付箋 模造紙
《 絵本紹介（例） 》 【絵本との出会い：心を育む・言葉の面白さ・大好きな気持ち】 「たまごのあかちゃん」、「はらぺこあおむし」、「ぐりとぐら」、「だるまさんが」、「たろうのともだち」 など 【家族の愛情：大切にされている自分を感じる・命を感じる】 「ティッチ」、「どんなにきみがすきかあててごらん」、「いのちのまつり」、「おへそのあな」、「おっぱい」 など 【友達：違いを認め合う・思いやりの気持ち・共感する心】 「ともだちや」、「しろいうさぎとくろいうさぎ」、「おいしいれのぼうけん」、「さっちゃんのまほうのて」、「オチツケオチツケこうたオチツケ」 など 【仲間：力を合わせる楽しさ・信じる心・互いを生かし合える場】 「スイミー」、「にじいろのさかな」、「けんかのきもち」、「だんぷえんちようやっつけた」 など			

〈参考資料〉 「人権教育資料集(就学前教育編)」岡山県教育庁人権教育課

私の好きな【人権・同和教育の視点が盛り込まれた】絵本の紹介シート

氏名()

- 1 絵本の著者名、書名、出版社、対象年齢

- 2 この絵本は(内容)

- 3 この絵本には

人権・同和教育の視点が盛り込まれています。

- 4 特に私が好きなところは

- 5 なぜ、子どもたちに読み聞かせようと思ったのか

- 6 読み聞かせをしたときの子どもたちの感想

【研修例8】

人権・同和教育年間指導計画を作成する

1 ねらい

人権・同和教育の視点に立った教育環境や指導方法の工夫や改善について話し合い、子どもの実態に応じた人権・同和教育の年間指導計画を作成する。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

具体的な目標を設定することで、人権・同和教育の視点に立った発達に応じた教育につなげることができる。

子どもを見取る視点を明確にすることで、指導者間の幼児・児童・生徒への理解が深まり感性が磨かれる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
1回目 60 (各自)	1 人権・同和教育全体計画と具体的目標について話し合う。 2 教育課程から「成長・発達の保障」「人権意識の育成」「仲間意識の育成」につながる内容を抽出する。	・学校教育における努力事項を確認し、園（所）・学校・子ども・保護者や地域の実態に即した計画・目標になるように話し合う。 ・人権・同和教育の視点を基に、各段階に育てたいものの、特に発達段階に応じて大切な視点を考慮する。 ・県、市町等が主催する研修会の資料や文献も参考にし、取り入れていく。	県、当該市町、学校の基本方針 筆記用具 教育課程 人権・同和教育全体計画
2回目 60	3 学年ごとに話し合う。	・各自が作った指導計画を基に、子どもの実態や教育課題について意見交換しながら、発達段階に応じた指導計画になっているかを確認し合う。	筆記用具
3回目 60 (各自)	4 全体で話し合う。 5 学年ごとに指導計画を確認する。	・作成した指導計画についてディスカッションし、共通理解を図る。	筆記用具

※ 他園・小学校・中学校との合同研修会として開催することもできる。

〈参考資料〉人権・同和教育指導の手引（愛媛県教育委員会人権教育課）

【研修例9】

ハンセン病問題についての学習

- 1 ねらい
ハンセン病問題について理解を深めるとともに、差別の現実に関心し、人権・同和教育の推進者としての資質の向上を図る。
- 2 手法
フィールドワーク
- 3 期待される効果
国立療養所入所者の話を直接聞き、園内の施設を見学することによって、理解を深め、自身の人権意識を高めるとともに、児童生徒の学習活動に生かすことができる。
- 4 場所
国立療養所大島青松園（事前・事後研修は会議室等）
- 5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
30	(事前研修として) 1 ハンセン病問題、大島青松園についての研修を行う。	・ハンセン病についての正しい知識をもち、差別の現実に関心し、学ぶという意識をもって訪問学習ができるようにする。	資料
90	(訪問学習) 2 入所者との交流学习を行う。 (1) 入所者のお話 (2) 参加者からの質問や感想	・交流学习や施設見学を通し、差別に負けず生き抜いてきたたくましさに触れ、人としての生き方について考えさせる。	
60	3 大島青松園の園内の施設を見学する。 納骨堂・鎮魂の碑・風の舞・解剖台、盲導鈴など	・児童の学習に生かせるように、許可を得て写真やビデオ撮影などを行う。	
30	(事後研修として) 4 訪問学習の参加者が報告会をする。	・差別の現実に関心し、学ぶことの意義を職員全員で共通理解を図る。	写真など

※ 大島青松園の施設見学については、大島青松園のホームページ内の「施設見学申込みにして」を参考に、必要な書類を準備し、確認をとる。[\(http://www.nhds.go.jp/~osima/\)](http://www.nhds.go.jp/~osima/)

※ 近隣では、岡山県の国立療養所長島愛生園に多くの資料が展示されている歴史館があり、見学可能である。（事前予約が必要）

〈参考資料〉

人権・同和教育資料「同和教育をはじめる様々な人権問題の解決に向けて指導者研修資料」（愛媛県教育委員会人権教育課）

【研修例10】

ピア・サポートによる「トラブル解決プログラム」

1 ねらい

児童生徒のコミュニケーション力を高めるためにピア・サポートに関する教職員の力量を高め、話合いで問題解決していく学級づくりに生かす。

2 手法

講義法、ロールプレイ

3 期待される効果

トラブルを解決できるように支援をしていく姿勢が身に付き、児童生徒一人ひとりを大切に考え、児童生徒との温かい人間関係を大切にした学級づくりにつながる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
1回目 45	1 ピア・サポート理論について理解を深める。	・ピア・サポートの理論的な内容の講義を聴く。	
2回目 45	2 傾聴するためのスキルについてワークショップをする。	・聞き手と話し手に分かれて、交代しながら傾聴する。その上に観察者をおいてもよい。 ・受容スタイルや傾聴の5つの技法を確認する。	ワークシート1
	3 調停するためのスキルについてワークショップをする。 (1) 話合いのルールを確認する。 (2) 聴き合う。 (3) 解決に導く。	・調停の事例を理解しておく。 ・各自役割を把握してロールプレイを行う。	ワークシート2
	4 観察者が調停について解説する。		
3回目 45	5 授業実践計画を立てる。 自校の実態、発達段階に応じて計画を立てる。 (学年会の検討可)	・2～3カ月で集中して取り組むのが望ましい。	

ワークシート1

傾聴スキルアップ

例：「自己紹介」「自分の好きなこと」など
(話しやすい内容であれば可)

☆ 上手な聞き方は、受容のスタイルと傾聴の5技法が重要になります。互いに聞き方の練習をしてみましょう。

【受容のスタイル】 1 顔を向ける 2 目を合わせる 3 体を向ける 4 共感する 5 リラックスする	チェック項目	さん	さん
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		

【傾聴の5技法】 1 受容する 2 繰り返す 3 明確にする 4 支持する 5 質問する	チェック項目	さん	さん
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		

(評価) ◎…よくできている ○…できている △…がんばろう

ワークシート2

調停スキルアップ

例：「ボールを取った」「貸してくれない」など
(対立する内容であれば可)

☆ 調停とは、対立する者の間に調停者が入り、話し合いで解決できるように援助する方法です。調停者は中立的な立場で互いが解決へ合意ができるよう導いていきます。ロールプレイをして練習してみましょう。観察者は、評価をしましょう。

(役割分担) 当事者A 当事者B 調停者 観察者(評価担当)

Aさんの言い分

Bさんの言い分

調停者の援助

(調停者の評価) よくできている できている がんばろう

※ 観察者は上記の3つの評価の中から1つ選び、○で囲みましょう。

【研修例11】

人権感覚を生かすスクラップゲーム

1 ねらい

新聞から人権に関わる記事を探しスクラップすることを通して、人権・同和教育の視点についての意識を高める。

2 手法

ワークショップ

3 期待される効果

参加者自身がこれまで身に付けている知識と人権感覚を生かして、人権・同和教育の視点を明らかにすることで、参加者の更なる人権意識の向上が期待される。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
5	1 研修の目的を確認する。	・人権意識を高めるために行う ということを理解させる	新聞（1人につき 1日分） 四つ切り画用紙 はさみ のり マジック
5	2 各自新聞を読む。	・新聞は、グループごとに発行 日を統一させる。新聞社は同 じでも別でも良い。	
10	3 人権に関連する記事を切り 抜く。	・文章記事に限るのではなく、 写真や広告など、幅広く検索 する。	
20	4 切り抜いた記事について報 告をする。（グループ内） 5 グループでトップ記事など レイアウトを決めて画用紙 に貼る。	・他の人と重複しないようにオ リジナリティを発揮する。 ・なぜこの記事を選んだのか、 自分の人権感覚や視点に照ら し合わせて説明する。	掲示用ボード マグネット
10	6 全体で、発表会を行う。	・重要性や関連性など、マジッ クで余白部分に書き込んでも 良い。 ・「人権を考える〇月〇日編」と いうテーマで、各グループが 発表を行い、他の班から質問 や感想を受ける。	
5	7 振り返りとまとめをする。	・ファシリテーターが振り返り を行った後、人権・同和教育の 視点について総括を行う。	ワークシート

【研修例12】

学校施設バリアフリー化計画 ～校内を巡って～

- 1 ねらい
バリアフリーについての理解を深め、身の回りの施設について、合理的配慮などの観点から考える。
- 2 手法
フィールドワーク、ディスカッション
- 3 期待される効果
バリアフリーの視点で物事を見るようになり、手軽なところから、学校の施設改善につながる。
- 4 場所
会議室等
- 5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
10	1 学校施設のバリアフリー化推進に関する基本的な考え方と合理的配慮について知る。 (1) 障がいのある児童生徒等が安全かつ円滑に学校生活を送ることができるように配慮 (2) 学校施設のバリアフリー化等の教育的な意義に配慮 (3) 運営面でのサポート体制等との連携を考慮 (4) 地域住民の学校教育への参加と生涯学習の場としての利用を考慮 (5) 災害時の応急避難場所となることを考慮	- なぜバリアフリー化の必要があるか、バリアフリー化すべき場所の具体例を紹介する。 - 合理的配慮について資料を活用して確認する。	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針」(内閣府)・「学校施設のバリアフリー化等に関する事例集」(文部科学省)など
35	2 バリア体験種類別に学校を巡視し、バリアフリー化の必要な箇所を撮影する。 3 撮影した箇所について改善策を考える。	①車椅子②視覚障がい者③聴覚障がい者④高齢者のバリア体験種類別にグループを編成する。 - 現実的に改善できそうな方法を検討する。	バリア体験用具 デジタルカメラ (グループ数)
20	4 グループごとに発表する。	撮影した写真を投影して発表する。 ①理由 ②改善策	プロジェクター (または大画面テレビ)
5	5 感想を発表する。	普段から相手のことを大切に考えて、互いに歩み寄ることが合理的配慮につながることを確認する。	

【研修例13】

私の人権ヒストリー

1 ねらい

これまでの自分の体験において、人権意識が高まった瞬間を振り返り、参加者に紹介することで、研修者相互の人権感覚を磨く。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

自分について語ることで、人権意識との関連を確認できるとともに、人権学習における児童生徒等への指導力の向上が期待できる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
5	1 研修の目的を確認する。	・自分と人権との関わりを振り返る時間であることを確認させる。	ワークシート
10	2 私の人権ヒストリーを作成する。	・人権意識が高まったと感じた年代を折れ線グラフ（横軸：年齢，縦軸：人権意識の高まり）で表す。	
	3 紹介ストーリーを選択する。	・グラフ内の特徴的な部分についていくつか取り上げ、その中の一つを5分程度のストーリーにまとめる。 ・言いたくないことや言いにくいことを無理して選ぶ必要がないことを伝える。	
25	4 グループ内で紹介する。 5 質疑応答を行う。 ※ 語る人を交代して、研修内容の4と5を行う。	・司会者は、グループ全員が紹介できるように「開始」「終了 30 秒前」「終了」「質疑応答」の指示を行う。	合図用ベル
10	6 振り返りとまとめを行う。	・まとめでは、様々な体験がその人の人権意識を育成していることを確認し、体験学習の重要性を伝えるとともに、今後の体験学習の計画について提案を行う。	

私の人権ヒストリー

氏 名



テーマ

(例：〇〇で〇〇となった自分)

【感想1：自分の話をしてみてどうでしたか？】

【感想2：グループの人の話を聞いてみてどうでしたか？】

【研修例14】

いじめ問題への対応

1 ねらい

いじめに対する基本的な考え方について共通理解を図るとともに、いじめ問題にどのように対応していけばよいかを考える。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

いじめに対する基本的な考え方や、必要とされる知識などを互いから学び合うことができることから、いじめ問題への実践的な対応力を高める効果が期待できる。また、職場で信頼を基盤とした人間関係を築くという同僚性を高め、協働体制づくりにもつながる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
10	1 いじめを疑う住民からの通報にどう対応するかグループで話し合う。	・いじめに当たるか否かを表面的、形式的に判断し、一律に「禁止」や「観察」などの対応を決定するのではなく、個々の行為に沿った具体的で適切な対応を考えるよう促す。	参考例1
15	2 ファシリテーターの説明を聞く。	・いじめの定義を正確に把握したうえで、適切な対応やその構造や質(程度)、原因などを見極める必要があることを説明する。	いじめ防止対策推進法 国、県、市町、学校等の基本方針
25	3 いじめに関する生徒からの相談にどう対応するかを考える。 (1) 各自で考える。 (2) グループで話し合う。 (3) 全体で話し合う。	・子どもの思いに寄り添いながら、いじめの解決に向けてできることを考える。 ・被害者を守るという視点に加え、クラス集団の傍観行動を抑制し、被害者への援助行動を促進するために必要な働きかけという視点についても考える。	参考例2
10	4 ファシリテーターによるまとめと振り返りを行う。	・いじめを許さない集団づくりのために、日頃から教職員間の共通理解を図り、協働できる組織づくりに努めることの必要性に気付かせる。	

参考例 1

ある帰り道、3人の生徒が、一緒に歩いて帰っていました。3人は幼なじみです。2人は同じクラスですが、Aさんは違うクラスです。3人とも同じ部活動で活動しています。途中で誰かが「ジャンケンをして、負けた人がみんなのカバンを持つことにしよう」と言いました。全員が賛成してジャンケンをするとAさんが負けて、3人分のカバンを持って歩くことになりました。3人分のカバンはとても重く、Aさんはふらふらしながら歩いています。2人はそれを見て笑いながら歩いています。

この光景を見た町の人が学校に連絡をしてきました。

「これって、いじめじゃないの？」

参考例 2

Aさんは、Bさんと去年も同じクラスで、ずっと仲良しの友達です。4月にクラス替えがあって、Aさんは、Cさんと新たに友達になりました。

そのCさんが、6月頃から、何かにつけてBさんをいじるようになりました。最初は、言葉でからかったりしていただけでしたが、最近は、Bさんに命令口調で何かをさせたり、みんなの前でわざとBさんを馬鹿にしたりするようなことを言うようになりました。Aさんは、何とかCさんにBさんに対する嫌がらせを止めさせたいのですが、次に自分がターゲットになるかもしれないと思うと、何も言うことができません。

ある日の休み時間、Cさんは、Bさんが教室に戻ってこないうちに、Bさんの教科書とノートを隠そうとしていました。そして、Aさんに「Bには黙っててね」と言いました。

同じクラスのDさんは、ニヤニヤしながらAさんの様子を見ています。周りの少し離れたところにいたEさんとFさんは、見て見ぬふりをして、教室からそっと出て行ってしまいました。

※ 当該校で実際に起こったケースを取り上げてもよい。

【研修例15】

インターネットによる人権侵害

1 ねらい

子どものインターネットの利用状況を通して、人権について考えることで、安心して豊かな生活を送ることができる。

2 手法

講義法、ディスカッション

3 期待される効果

少人数で話し合うことにより意見が出やすくなり、インターネットに関する知識や技能にかかわらず、互いに補いながら考えを深められる。PTAほか様々な年齢層が参加すると、それぞれの立場からの意見を求めることができる。

4 場所

会議室、公民館等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
10	1 インターネットの基礎知識や課題に関する講義を聞く。	・正しい知識を身に付けさせる。	ホワイトボード ワークシート
15	2 具体的な事例からインターネットの便利さについて話し合う。 ・交流面の利便性、情報収集、発信の容易性など	・少人数の班に分けて話し合う。 ・インターネットをあまり利用しない人には、説明しながら話し合いを進める。	
15	3 具体的な事例からインターネットの危険性について話し合う。 ・情報漏えい ・無責任 ・名誉棄損 ・なりすまし	・ファシリテーターが具体的な事例を示して、話しやすくするように声を掛ける。 ・差別落書きなどと比較し、匿名性についても考える。	
20	4 人権侵害を防ぐためにできることを話し合う。 ・家庭内のルール ・学校でのルール ・地域でのルール	・対症療法としての人権救済と根治療法としての人権教育の両方が必要であることを助言する。	
10	5 話し合った内容を共有する。 ・インターネットを使う社会の意識について	・班ごとに発表させた後、ファシリテーターがコメントする。 ・インターネットを活用するうえで自他の人権について配慮しなければならないこと。	

【研修例16】

教科書記述から人権問題を考える

1 ねらい

教科書の記述から人権問題を考え、教職員の人権問題に関する知識・理解を深める。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

他校種の人権問題に関わる教科書の記述を研修することを通して、発達段階に応じた指導内容の理解が深まるとともに人権問題の解決に向けた人権意識及び指導力の向上の効果が期待できる。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
20	1 小学6年社会科の教科書の記述から考える。 【例 識字学級】 (1) 教科書の記述について (2) 歴史的背景について (3) 愛媛県下の識字学級の状況について	・異校種の教科書を使用する。 ・基本的人権の尊重の視点から、文字を奪われた事実を確認する。 ・同和問題に関わるポイントについて確認する。 ・江戸時代の身分制度や解放令、全国水平社等について押さえる。 ・現在の識字学級の状況について押さえる。	小学6年社会科教科書下など 補助資料 補助資料
15	2 教科書の記述に関わる資料をもとに話し合う。	・ポイントを明確に、話し合う視点を示す。 ・小グループから全体へ広げていく。	教科書記述に関わる資料
10	3 話し合っまとめた内容を共有する。	・発達段階に応じた指導内容について共通認識をもつ。	

【研修例17】

地域の題材に関する教材化を考える

1 ねらい

近年、人権委員会の活動でフィールドワークを行う学校が増えてきた。しかし、その内容を教材化してホームルーム活動で実践している教員は多くない。そこで、地域の題材に関する教材化では、どのような視点でフィールドワークを行えばよいか、どのようなことに配慮が必要かについて考える。

2 手法

フィールドワーク

3 期待される効果

身近な地域の題材を組み込んだ教材を作成できるようになることで、生徒の興味関心を高め、しっかりとした認識をもたせるホームルーム活動を行うことができる。

4 場所

会議室等、現地

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
10 35 15 90	1 フィールドワークを行う意義を考える。 2 内容をどのように活用するかを考える。 (1) ホームルーム活動で学ぶ内容と身近な題材とをどのように関連させるかを考える。 (2) 生徒に感じ取らせたいことや考えさせたいことを話し合う。 3 フィールドワークを行う際の注意点を確認する。 4 フィールドワークを行う。 (事後研修として) 研修で得た情報の教材化に向けて準備を進める。	- 地域の題材を扱うことの意義を考える。 - 話し合いを行うなかで、参加者それぞれの考えをまとめさせる。 - フィールドワークのねらいを明確にする。 - 観察すべきポイントをあらかじめ明示する。 - 交通状況等、野外活動の留意点を伝える。 - どのようにビデオや写真を撮影すれば、教材として活用できるかを考えながら現地研修を行う。 - 同和問題学習においては地域が分からないようにするなど、プライバシーに十分配慮する。	「人間の輪」などのテキスト 地図 ビデオやカメラ

【研修例18】

人権委員会のフィールドワークの報告

1 ねらい

人権委員の活動を生徒集会や文化祭、人権・同和教育だよりなどで生徒・教員・保護者に報告を行っている学校は多い。そこで、報告に加え、各自の感想や思いを交換する場を設定し、さらに身近な事例との関わりを学ぶことで、より深く考える機会をつくり、積極的にその題材を活用しようとする姿勢を養う。

2 手法

講義法、ディスカッション

3 期待される効果

フィールドワークで研修した内容を参加者が身近な問題として捉え、研修の成果を各学級や授業で紹介したり、ホームルーム活動で取り上げ生徒とともに考えたりするなど、積極的に学習内容を活用する者が増えることが期待される。

4 場所

会議室等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
15	1 人権委員会が行ったフィールドワークの報告を行う。 (1) 関係者からの聞き取り (2) 関係施設の訪問	・フィールドワークに参加した教員や人権委員の作成したプレゼンテーションを使って報告を行う。	プレゼンテーション 「えひめ人権の道しるべ(改訂版)」
10	2 報告に対する感想を少人数の班で話し合い、班の代表が話し合った内容を報告する。	・研修報告を聞くだけでなく、参加者の感想や思いがホームルーム活動や授業につながるように促す。	筆記用具など
20	3 フィールドワークで取り上げた人権課題について、関係者より講義を聞く。	・講義を通して、具体的な内容を学び、授業展開についてのイメージを考えさせる。	
25	4 ホームルーム活動での活用法について考える。	・今回の学習内容を、生徒により効果的に伝えていく方法について協議し、指導案を作成させる。	指導案枠

【研修例19】

ホームルーム活動を通じて保護者啓発の方法を考える

1 ねらい

保護者は、人権・同和教育に触れる機会が少なく、高等学校の保護者啓発も小中学校に比べて頻度や方法も限られている。そこで、保護者の人権・同和教育に関する考え方を知り、ホームルーム活動を通じて保護者啓発を行う重要性を認識する。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

これまでのホームルーム活動の内容における改善を図ることができるだけでなく、家庭で話し合ってもらうことを意識したホームルーム活動を実施するようになることが期待できる。

4 場所

会議室

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
	事前に準備する。	・1年生入学式の後、保護者にテキストを配布し、感想を回収する。	「人間の輪」などのテキスト
10	1 保護者の感想の分析を簡単に行う。	・感想をまとめたものを簡単に総括する。	感想のまとめ
20	2 保護者の意見について考える。 (1) 前向きな意見に関して (2) 同和問題を教えなくても良いという意見に関して (3) 差別の現実に関する認識があらわれている意見に関して	・それぞれの代表的な意見を紹介して、同和問題をはじめとする様々な人権問題に対する保護者の考え方を知り、それに対する感想を述べ合う。	
20	3 アンケート内容を踏まえ、今後どのようなホームルーム活動を行うのかについて考える。	・学校で学んだことを家庭で話し合ったり、家庭での話し合いを学校で発展させたりするなどの生徒を通じた保護者啓発の重要性を認識する。	

【研修例20】

えひめ人権の道しるべを訪ねて

1 ねらい

自分たちの住む愛媛県にある歴史や人物に触れることで、差別解消に向けての取組に対する認識を深める。

2 手法

フィールドワーク

3 期待される効果

人権獲得に関わった人々の熱と光に触れ、教職員自らの人権意識を高めることができる。

地域教材の扱い方を研究でき、適切な指導法に結び付けることができる。

4 場所

会議室等、現地

5 研修内容と留意点

時期	研修内容	留意点	準備物等
1 学期	1 グループで「えひめ人権の道しるべ」を見ながらフィールドワークに行く場所の候補を相談する。	・当該市町教育委員会等関係者と連携を図り、フィールドワークをナビゲートしてくれる講師を探すなど、協力依頼をする。	「えひめ人権の道しるべ(改訂版)」 (愛媛県教育委員会)
夏休み	2 現地を訪れて、フィールドワークを行う。	・関連教材なども地域に依頼し、収集する。	
	3 グループでレポートを作成し、プレゼン用資料を作る。	・聞き取りによって得られた、資料以外の内容について解説を加える。	パソコン
2 学期	4 報告会を行う。	・各グループには、自校での教材化を考えながら作成させる。	パソコン プロジェクター等
3 学期	5 教師の研修資料をまとめ、地域・保護者等への啓発を行う。	・自分たちの作成した資料を生かせる方法を工夫する。	

【研修例21】

セクシャルハラスメントをなくす

1 ねらい

セクシャルハラスメント（以下セクハラ）は、個人としての尊厳を不当に傷つけ、職場で能力を十分に発揮することの妨げとなるばかりか、雇用側にとっても、職場秩序の乱れや業務の支障につながり、社会的評価に悪影響を与えかねない。この問題について正しく知り、どう対処していくべきかについて研修する。

2 手法

講義法、ワークショップ、ロールプレイ、ブレインストーミング

3 期待される効果

専門家の話を聞くだけでなく、事例を疑似体験して話し合うことで、問題の本質を正しく理解し、差別解消に向けた今後の行動につなげていくためのきっかけとなることが期待できる。

4 場所

会議室、公民館等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
30	1 セクハラの実態などについて、講師の話を聞く。	・職場におけるセクハラの原因など基礎知識を正しく知り、共通理解を図る。	研修資料 プレゼンテーション機器
30	2 ロールプレイに参加する。 ・対価型 ・環境型	・グループ分けに当たっては、できるだけ全ての年齢層を入れるとともに、必ず異性の組み合わせにして、それぞれの立場を体感させる。 ・事例ごとに演技者を変え、多様な対応の場面で、共通問題となるものを考えてもらう。 ・全員が必ず意見を言うことで、セクハラ防止を自らの問題として意識させる。 ・場面設定(事例)を用意し、疑似体験をした後、どんな言動や考え方が差別なのか、その対処法など意見を出し合い、結果を発表することで、参加者全員で研修成果を共有する。	研修資料（場面設定） とりのこ用紙 付箋 マジック セロハンテープ など
20	3 講師による総括を聞く。	・セクハラ防止への意識の高揚を図り、行動改善につなげる。	

【研修例22】

身近な人権問題として考える「性的マイノリティ」

1 ねらい

「性的マイノリティ」の問題について正しい理解や認識を深め、学校生活の中で配慮することについて教職員間の共通理解を図る。

2 手法

DVD視聴、KJ法

3 期待される効果

性的マイノリティを身近な人権問題として捉え、学校生活のなかで配慮することについて具体的に考えることにより、様々な悩みを抱える児童生徒について配慮する内容等を考える機会とし、児童生徒や保護者への支援に生かすことができる。

4 場所

DVD視聴が可能な場所

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
30	1 DVDを視聴する。	・ 性的マイノリティについての正しい知識をもつことを視聴の視点とする。	DVD 「同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に向けて指導者研修資料」(愛媛県教育委員会人権教育課)
15	2 学校生活のなかで配慮することについて小グループで話し合う。 (小学校例) (1) トイレについて (2) 体育やプールについて (3) 宿泊行事について (4) その他学校行事全般について	・ 「みんなが過ごしやすい学校」について、具体的な場面でできることは何かを考え、意見を出し合う。 ・ 様々なアイデアを整理しやすくするために付箋を用い、意見をまとめさせる。	ワークシート 付箋
10	3 話し合ったことを報告する。	・ 中学校、高等学校での話合いの内容については、発達段階に応じて設定する。	
5	4 まとめを行う。	・ 話合いで出た意見を報告し合い、配慮や支援の方法等について共通理解を図る。	「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」(文部科学省)

〈参考資料〉

「愛媛県人権啓発センター〈ご案内〉」(愛媛県人権啓発センター)

みんなが過ごしやすい学校について考えよう。

- 1 みんなが使いやすいトイレのためにできることを考えてみよう。

- 2 みんなが楽しい体育・プールのためにできることを考えてみよう。

- 3 みんなが楽しい宿泊行事のためにできることを考えてみよう。

- 4 みんなが楽しい学校行事のためにできることを考えてみよう。
(運動会、合唱コンクール、音楽会、学習発表会、卒業式など)

【研修例23】

私は私が好きです。なぜならば・・・

1 ねらい

参加者が自らの肯定的な面を表現することを通して、職場の雰囲気が温かくなり、肯定的な人間関係づくりの促進を図る。

2 手法

ディスカッション

3 期待される効果

アイスブレーキングとして実施するもので、参加者の自己受容や他者理解を促進することにより、職場内で信頼を基盤とした人間関係を築くという同僚性が高められ、互いを支え合い、高め合い協働するための環境づくりが期待できる。

4 場所

体育館等(複数のグループごとに車座になって座ることができる場所)

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
5	1 研修の目的を確認する。	・ 親しい者同士が集まらないように小グループをつくる。	ホワイトボード
5	2 研修内容について説明する。 「私は私が好きです。なぜならば・・・」に続けて自分の良い面を発表する。	・ ファシリテーターが実際にやってみせる。	
20	3 アクティビティを実施する。	・ 沈黙の時間があっても、必ず順番を飛ばさないようにする。 ・ 思いつかない人には、短所をポジティブに捉え、長所に言い換えるように促す。	
10	4 振り返りを行う。	・ 気付いたこと、感じたことなどを自由に発表させ、共有させる。	
5	5 まとめをする。	・ 職場内で信頼関係を築き、協力して組織的に動くことの重要性を認識させる。	

【研修例24】

高齢者虐待防止のための研修

1 ねらい

高齢者に対する人権侵害について知り、自分にできることや職場・地域で取り組むことを考える。

2 手法

講義法、ディスカッション

3 期待される効果

少人数で話し合うことで、意見が出やすくなり、家族の問題として捉えられがちな高齢者虐待の問題を地域社会の問題として考えたり、自分の問題として考えたりすることができる。

4 場所

会議室、公民館等

5 研修内容と留意点

時間 (分)	研修内容	留意点	準備物等
30	1 講師の話を聞く。	・虐待の実例や防止、発見のポイントなどを話してもらう。	研修資料
20	2 グループで討議をする。 (1) チェック表に記入する。 (2) (1)をもとに、虐待を見付けた場合の行動を話し合う。 (3) 虐待を受けた人の相談に乗る。 (4) 虐待をした人の相談に乗る。	・隣人という設定で、虐待を見付けた場合の通報の仕方を具体的に話し合う。問題点があれば、解決方法を話し合う。 ・虐待を受けた高齢者からの相談を受ける設定で、人間関係や虐待の要因について考える。 ・虐待をしてしまった家族からの相談に応えるという設定で、介護者の問題など、虐待の要因について考える。	ワークシート
20	3 指導者または専門家による講評等を行う。	・地域のネットワークの強化が早期の取組につながり、解決の一つとして考えられることを示す。	

ワークシート

① チェックシート

高齢者からのサイン

- ☐ 傷やあざの説明のつじつまが合わない
- ☐ 「怖いから家にいたくない」などの訴えがある
- ☐ 寝具や衣服が汚れたままの場合が多くある
- ☐ 無気力、あきらめ、投げやりな様子になる
- ☐ 主治医や保健、福祉の担当者に話すことや援助を受けることをためらう
- ☐ 経済的に困ってないのに、利用負担のあるサービスを利用したがない

介護者の態度に現れるサイン

- ☐ 高齢者の世話や介護に対する拒否的な発言がしばしば見られる
- ☐ 他人の助言を聞き入れず、不適切な介護方法へのこだわりが見られる
- ☐ 高齢者に対して過度に乱暴な口のきき方をする
- ☐ 経済的に余裕があるように見えるのに、高齢者に対してお金をかけようとしない

地域からのサイン

- ☐ 自宅から高齢者や介護者・家族の怒鳴り声や悲鳴・うめき声・物が投げられる音がある
- ☐ 家族と同居している高齢者が、コンビニやスーパー等で一人分のお弁当を頻繁に買っている

② あなたは、隣の家の高齢者について、①のチェックシートの項目に当てはまることが多いことに気付きました。さて、その後、どのように行動しますか。

③ あなたは、近所の高齢者から、「虐待を受けている」と相談を受けました。さて、その後、どのように行動しますか。

④ あなたは、高齢者の介護者や家族から、「虐待をしてしまった」と告白されました。さて、どのように応えますか。

「高齢者虐待」について

- (1) 65歳以上の高齢者に対する「養護者（高齢者のお世話をしている人）」または「養介護施設従事者」による次のような行為
- ① 身体的虐待 ② 心理的虐待 ③ 介護・世話の放棄・放任
 - ④ 性的虐待 ⑤ 経済的虐待
- (2) 家庭内の高齢者虐待は発見しにくい場合が多いので、近隣住民、民生委員や自治会などの地域組織などがサインに気付くことが早期の対応に結びつく
- (3) 虐待の要因は、人間関係や介護者の負担、経済的困窮などが合わさっていることが多く、背景を見定めて、高齢者の保護や介護者の支援を適切に行うことが必要である。
- (4) 高齢者虐待を防ぐ行動を意識することは、地域のつながりを強め、ひいては自分の人権を守ることにもつながり、高齢者が暮らしやすい社会の実現に結びついていく

〈参考資料〉「高齢者虐待を防止するために」（愛媛県）

資料作成委員

四国中央市立土居西幼稚園	副 園 長	山中 暁子
松 前 町 立 古 城 幼 稚 園	教 諭	尾山 美香
西 条 市 立 飯 岡 小 学 校	教 諭	渡部久美子
宇和島市立立間小学校	教 諭	山口 郁代
新居浜市立川東中学校	教 諭	越智 崇徳
松 山 市 立 勝 山 中 学 校	教 諭	槇 光一郎
大 洲 市 立 肱 東 中 学 校	教 諭	二宮 研一
愛媛県立今治北高等学校	教 諭	藤本 充
愛媛県立松山南高等学校	教 諭	浅野 尚志
愛媛県立八幡浜高等学校	教 諭	河中 辰仁
伊予市教育委員会社会教育課	課長補佐	安田 敦
大 洲 市 人 権 啓 発 課	人権啓発指導員	山口 竹雄

なお、人権教育課においては、次の者が本書の編集にあたった

課 長	峯本 陽子	主 幹	佐伯 康人
係 長	高岡 憲二	担当係長	酒井 学
担当係長	青木 志郎	指導主事	河淵 陽子
指導主事	佐々木 直	指導主事	中江 雅人
指導主事	久保 宏樹	指導主事	堀 賢一
専 門 員	大野さおり		

人権・同和教育資料 人権意識を高めるための研修事例集

発 行 平成 28 年 3 月
編集者 愛媛県教育委員会人権教育課
発行者 愛媛県教育委員会人権教育課

